

事例紹介



90代女性のお客さま

病名

心不全・骨粗鬆症・圧迫骨折

家族構成

90代の夫と二人暮らし。
ご家族が自宅から15分ほどのところに住んでいる。

介護度

要介護2

訪問看護週2回 デイサービス週2回利用中

お客さまのご希望

ご本人「体調管理しながら住み慣れた自宅で生活したい」
ご家族「転ばないように注意しながら夫婦で仲良く暮らしてほしい」

看護介入

内服を処方通りに飲むのが難しく、心不全の症状が悪化傾向にありました。心不全による下肢の浮腫があり、医師の指示で弱圧ストッキングの着用を開始しました。それと同時にスキンケアと傷の予防などの日常生活の指導を行いました。

多職種連携

ご自分でストッキングを履くのが難しかったためデイサービスでストッキングをはかせてもらえるようにお願いしました。主治医へ心身状態の報告を行い、内服の状況や浮腫、その他の心不全症状について情報共有をしていました。内服のこだわりが強くご自分で管理したい気持ち強い方なのでケアマネジャーやご家族と相談しながらどうにかお薬カレンダーでの管理を承諾してもらえました。

浮腫がひどく足の甲から足首にかけて皮膚色が悪くなっていました。悪化すると潰瘍になることもあります。



ストッキングを3種類ほどためしご本人にあったものを選択しました。



お客さまの気持ちに寄り添いながら体調を維持できるように多職種で協力し、浮腫が改善していきました。

訪問看護ステーションいずみ